

Title	before 節について
Author	衣笠, 忠司
Citation	人文研究. 58 卷, p.177-195.
Issue Date	2007-03
ISSN	0491-3329
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学院文学研究科
Description	富田和暁教授 : 毛利正守教授 : 山崎弘行教授 : 松村國隆教授 : 小林標教授退任記念

Placed on: Osaka City University Repository

before節について

衣 笠 忠 司

when節については、完結的出来事、非完結的出来事、状態といったものがS₁ (主節) とS₂ (従属節) にどういう組み合わせで使われているか次第で意味の違いがあることを衣笠 (1998) で示した。それにならって、S₁ before S₂において、S₁とS₂が完結的出来事の場合、S₂が単純形なら出来事の順番を示し、完了形なら当然先に起こるべきことが実現されず、その途中に、別の出来事が先に起こること、S₁S₂ともに未来形ならS₂よりS₁の事態を好む・優先するといった意味の違いが構文によって生じることを考察する。またbefore節が先行する場合は、S₁が完結的であれば、早くもこの段階でというニュアンスをもち、S₁が状態であれば、その前の状態を示すという違いがあることも考察する。そうすると、非文とされてきた文がどうして非文になるのか、認められるにしてもどういう意味で認められるのかを正確にわかることを示した。最後に、時間を示す主節-before節の場合、willが生起する場合があるが、その場合のbefore節は出来事の順番を示さない場合であり、出来事が起きるまでの期間 (未来) があると意識されたときにwillが用いられること、before節内にcan (be able to) があるときは出来事が起きるまでに長くかかる傾向があること、be toがあるときは否定的な含意があること、仮定法のwouldになると実現しなかったことが示されるなど、before節内にどういふ助動詞等がくるかによって、意味が変わるかということについても考察する。

1. はじめに

衣笠 (1998) ではS₁ when S₂ およびWhen S₂, S₁ において、S₁とS₂の中身の違いが全体の意味の違いを示すということを考察し、(1) (2)のように示した。同じことがbefore節にもあてはまることを考察する。before節内の動詞には単純形である場合と過去完了形である場合とがある。したがって、それらの違いについても構文を考察する。

(1)	S ₁	when	S ₂	意味
	非完結的・完結的状態		完結的	S ₁ →S ₂ (逆転のwhen節)
	状態/非完結的		完結的	S ₁ の場所、年齢、人の様子が焦点
	状態		完結的	S ₁ は判断・評価を示す
	完結的		完結的	S ₂ →S ₁ (S ₂ がきっかけ・動機)
	完結的		状態・非完結的	場所、年齢、場面を示す (対比)

(2) When S ₂ ,	S ₁	意味
状態	完結的	S ₂ (年齢、年代、場所) はトピック
非完結的	完結的	S ₂ は場面
完結的	完結的	S ₂ →S ₁ (結果)
完結的	状態・非完結的	S ₁ の事態が先行する

2. (完結的) 出来事と状態

前置詞by, before, tillを区別しようとする、動詞を出来事と状態でわかる必要がある。その理由を例文(3)で説明してみよう。

- (3) a. He will be here by six.
 b. He will be here before six.
 c. He will be here till six.

(3a,b)では指定された期間内において(完結的)出来事が起こるということを明示するのに対して、(3c)ではその時点まで(継続的)状態が続くということを示している。つまり、be動詞が(完結的)出来事の意味でも(継続的)状態の意味でも使用可能なことを示している。そして、byとbeforeの違いは6時を含む(●)か含まない(○)かの違いとなる。

- 6時
- (4) a. by six : 6時を含む -----●
 b. before six : 6時を含まない -----○

Swan (2005) は(5)(6)の例をあげ、before節とuntil節がどちらもあまり意味が違わない場合があることを示唆している。しかし、この場合はいずれも何かをする [出来事] のにどれくらい時間がかかるか(かかったか)という場合に限られる。これは時間の経過はそういう状態が続いたともとれるし、それだけかかったという出来事ともとれるからである。そういう意味で時間が関係する場合は別扱いが必要である。¹⁾

- (5) a. It took us six weeks before/until we got the house clean.
 b. It took a long time before/until she felt comfortable in her new school.

(Swan 2005, 570)

- (6) a. It'll be ages until/before we meet again.

- b. There's only six weeks left until/before Christmas. (Swan 2005, 594)

X before Yにおいては、(X、Yが時間でない場合) 基本的にはXからYという2つの出来事の順番を示す。そして、Yは名詞、動名詞、節の3種すべての場合で出来事を表し、状態は示さない。具体的に、decision, deciding, decideという3種類の例をあげておく。

- (7) a. "When Mr. Cleary promised me (that) a fair and impartial evaluation of my brother's mental state would be made **before a decision** on the death penalty, I believed him," David Kaczynski said in an interview.

(*L.A. Times*, December 21, 1997)

- b. Then a number of factors will be taken into consideration **before a decision** is made on whether or not to operate. (Wordbanks)⁵¹

- (8) a. His message to them and the younger generation is to not wait until the last minute **before deciding** on where to move.

(*Seattle Times*, September 4, 1999)

- b. Surely they would check with the hospitals and the morgues **before** deciding that he'd been taken. (*Reader's Digest*, June 1991)

- (9) a. I advise you to think again **before** you *decide*. (Swan 1995: 503)

- b. "Promise me you'll send it to the record company **before** you *decide* to quit." (G. Gipe, *Back to the Future*)

したがって、waitは本来状態を示す動詞であるが、まれにbeforeの後にくることがある。上でみたように、この場合も、次の動作までの1つの行為(出来事)を示しており、状態ではないことになる。

- (10) She saw his frightened little face above the water and once, when he got into difficulties, stepped forward and took him in her arms and guided him back towards the shore. Yet not **before waiting**, just for a moment, but for a real interval to pass before she went to him. He saw her wait, saw her watch him struggling there, hung in the water like a helpless unearthly thing, and for a minute he hated her. (Wordbanks)

be動詞文の場合も同じで、(11)のbe動詞を含む文は状態を示す。しかし、(12)のような

when節内にくると出来事を示す。このことから、waitの場合も普通は状態を示すのが普通だが、前後の関係からは1つの出来事を示している。

- (11) a. You're a famous star.
 b. He was clean.
- (12) a. When you're a famous star, you'll send for me.
 b. When he was clean, she dried him off and powdered him, then shaved him and combed his hair. (S. Sheldon, *A Stranger in the Mirror*)

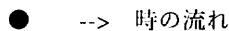
3. 構文

when節の場合にならって、具体的にどういう構文を考えたらよいかを考察していくことにする。

3.1 S₁ (完結的) before S₂ (完結的)

主節の動詞とbefore節の動詞がどちらも単純形であり、完結的出来事である場合、2つの出来事の単なる順番を示しているにすぎない。よって、before節で示される出来事は、(13a,b)のように、実現の含みをもつこともあるが、(14a,b)のように、S₁がS₂の行為を妨げるような文脈では、実現の含みというよりは、意図のみを示すことになる。いずれにしても、単純形では基本的に(15)のように出来事の順番が示される。

- (13) a. I always *feed* the cat **before** I *have* breakfast.
 b. He *did* military service **before** he *went* to university. (Swan 1995: 90)
- (14) a. They *closed* the door of the room **before** I *was* in.
 b. The bridge *was* destroyed **before** John *was* across. (Declerck 1979: 737)
- (15) 主節 before節



また、(16a)のような未来の場合も行為(出来事)の順番、つまり連続する出来事(ほぼ同時に起こる出来事)を示しており、未来であることは主節のみで扱い、接続詞がその関係を示している。3.5や4節で扱う特別な意味をもつ場合を除いては、before節に限らず、if節でも、when節でもwillは主節にのみ用いられる。また、(17)も単に(未来の)2つの出来事(fall offとget to sing the anthem)の起きる順番を問題にしている文であるために、この構文に

なっている。

- (16) a. I'll telephone you **before** I come. (*I will come)
 b. I'll give her your love if I see her. (*I will see her)
 c. I'll phone you **when** I arrive. (*I will arrive). (Swan 2005: 84, 234, 188)
- (17) She was holding the mike in one hand and the reins in the other, and the horse was livelier than she'd expected, and she was praying she wouldn't fall off **before** she got to sing the anthem. (D. Steel, *The Ranch*)

では、S₂が過去完了形の場合も同じ出来事の連続という意味なのであろうか。確かに(18)に示すように、完了した時点と主節が示す時点と比べると連続している。しかし、過去完了形は完了に至る過程が示されているといえる。●に至る点線の部分が完了形の部分である。そしてその途中で起こる出来事(●)が、主節の出来事ということになる。すると、主節の出来事(●)はbefore節の時点より先行して起こっているのでbefore節が用いられることに不思議はない。しかし、本来起こるべきだった時点(○)があって、その意識された時点と実際に起こった時点との間にずれがある。その○--●のずれの部分が完了形として示される。日本語でいえば「…してしまわないうちに」の「しまう」の部分ということになる。(14)ではS₂の行為が妨げられているが、(19a,b)のような文ではS₁はS₂とは関連しない行為であるので妨げられないのが普通である。(Declerck 1979)は(20a)をあげているが、この場合もむしろ死ぬことは早められたかもしれないが、妨げられている例ではない。

- (18) 主節 ●
 before節 ○-----● --> 時の流れ
- (19) a. You can't go home **before** I've signed the letters.
 b. He went out **before** I had finished my sentence. (Swan 1995: 90)
- (20) a. The executioners buried John **before** he had died. (Declerck 1979: 736)
 b. She disappeared **before** Mack had finished nodding. (Wordbanks)

この関係はtill (until) 節についてもあてはまる。Swan (2005: 593-94) は(21)をあげて、「現在(過去)完了形は完了したことを強調する」と述べている。しかし、それがあてはまるのは、(21a)(22a,b)のような、「(…しまう)までは…してはいけない」という文脈の場合である。これを図示すると(24a)のようになる。「not+行為」はいわば「ある行為が終わらないうちに、別の行為をしない状態を保つ」という意味と考えられる。(23)のような単純形の場合は(24b)のように示される。

- (21) a. You're not going home **until** you've *finished* that report.
 b. I waited **until** the rain *had stopped*. (Swan 2005: 594)
- (22) a. Don't accept the latest health tip **until** you *have considered* the potential dangers as well as the alleged benefits. (*Reader's Digest*, June 1991)
 b. O'Keefe instructed, "Whatever you are doing, leave it. Do nothing else **until** you *have completed*, with the utmost speed, what I am about to tell you."
 (A. Hailey, *Hotel*)
- (23) He walked quite normally **until** he *got* close to the door of the tent, then he started to limp and whine. (Screenplay: *Gladiator Story*)
- (24) a. 主節 ●●●●●●
 till (until) 節 (完了形) -----● → 時の流れ
 b. 主節 ●●●●●●
 till (until) 節 (単純形) ● → 時の流れ

(25a,b)の場合のニュアンスを具体的にみてみよう。(25a)の1つ目のtill節でもわかるように、(過去)完了形は(目の前でその行為の経過を見ていて)「完全に出ていってしまうまでの間」が示されている。(25b)(26a)でも(目の前でその行為の経過を見ていて)「行為が完了するまでの間」が示されている。これに対して、(25a)の2つ目のtill節および(23)(25c)(26b)には「途中経過を見ている」というニュアンスがないので、単純形が用いられていることがわかる。

- (25) a. Benjamin waited till Mr. Robinson *had left* the room, then took several deep breaths. When he finished taking the deep breaths he put his hands in his pockets and walked quickly back and forth **till** Mr. Robinson *brought* him his drink.
 b. "I am too." Benjamin said. He watched Mr. Robinson **until** he *had taken* the last swallow from his glass, then stood.
 c. He stood looking out the door at the swimming pool and the guests **until** finally Mr. Braddock *rushed* inside. (C. Webb, *The Graduate*)
- (26) a. They sat down together and waited **until** the barber *had finished*.
 b. 'I'll sit here **until** your friend *comes* back, and then I'll stand somewhere.'
 (L.A. Hill, *Intermediate Comprehension Pieces*)

では、「before + 過去完了」の場合はどうであろうか。実例をみてみよう。たとえば、(27)は「血にみせかけるためトマトソースをかけるのが完了しきらないうちに、カメラが戻ってき

てしまった」という途中経過が意識されている場面で使われている。また、(当然)完了してからカメラが戻ってくるという想定がくずれたことを示している。(28)は「温度が十分あがるまで待たなくてはいけない」という想定がくずれて、その途中に何かをオープンに入れてしまったという文である。また、(29)でも、(本人としては)タオルを先に頭からとろうとしていたのに、その途中に行為を完了してしまったというニュアンスをもつ。

(27) 'I can tell you a story about that. One day, a live television show was going on, and one of the actors was supposed to have been shot. He fell to the ground, and the camera moved somewhere else to allow time for me to run out with a bottle of tomato sauce to pour on to him to look like blood. But unfortunately the camera turned back to him **before** I *had finished*, and the audience saw me pouring the sauce on to the man.'

(L.A. Hill, *Advanced Stories for Reproduction*)

(28) For example, if I put something in the oven **before** it *had come* to temperature, or if I got the steam going **before** I had everything chopped, that sort of triviality (or so I thought) was precisely reflected in the color and shape of the final product. Which surprised me.

(M. Backus, *Kitchen*)

(温度が上がりきるのをちょっと待てなかったりとか、水分が全部切れるより前に作ってしまったたり、そんなささいな、と思うことが結果の色や形にきちんと反映して、びっくりした。(吉本ばなな『満月-キッチン2』)

(29) Almost in the same second, he thrust his right arm forward and plunged the point of the scalpel deep into the centre of the enormous boil. He gave the blade a quick twist and then withdrew it again **before** the wretched boy *had had* time to disentangle his head from the towel.

(R. Dahl, *Boy*)

したがって、(30a)は「(当然)死んでから埋葬という順番が想定されていた(が、まだ死んで行くその途中に)埋めてしまった」ということを「過去+before+過去完了」の構文は示している。(30b)が容認されないことは、松村(1996)を始めとして、多くの文法家が説明に苦勞している文であるが、その理由は文法的な理由ではなく、「死んでから、小説を書く」という順番が一般的な想定ではないからであり、「死んで行く途中に小説を書きあげる」ということは普通考えられないにすぎない。これに対して、(30a)の「死んでから、埋葬する」というのは自然な流れである。

(30) a. The executioners buried John **before** he *had died*.

(=(20a))

- b. *John wrote a novel **before** he *had died*. (Declerck 1979: 736)

3.2 S₁ (状態・非完結的) before S₂ (完結的)

when節でもこの構文は「S₁の主語である場所、年齢、人の様子」などを示すことを衣笠(1998)は述べている。この場合も同じで、出来事が起こるまでにすでに遅い時間になっているとか、出来事が起こる前の人の様子が説明される。(32)のような出来事が起こる前にすでにある状態になっているという例もここに含めることができる。

- (31) a. It was dawn **before** he manage to sleep.
 b. It was late **before** I knew it.
 c. It was late afternoon **before** the second serenade had been finished and the gifts exchanged.
 d. Pacheco was around **before** you showed up.
 e. And everybody was seated **before** I came in. (Wordbanks)
- (32) Our generation has a chance to reclaim some essential values, to show we have grown up **before** we grow old. (Larry King Live, August 4, 2000)

いわゆる進行形も非完結的出来事として、ここに含まれる。(33a,b)の例はどちらも人の様子である。

- (33) a. Zoe was holding tightly to her hand, and Tanya was already crying **before** he said a word. (D. Steel, *The Ranch*)
 b. Mrs. Sklar was talking even **before** he had hung up. (Wordbanks)

3.3. before S₂ (完結的・完了形), S₁ (完結的) ー場面設定(そんなに早い段階で)ー

(30b)は容認されないことを考察したが、(34)では容認度が高くなる。それは、before節の前置によって、「(順序として)当然先に起こるべきことが実現されなかった」というニュアンスはなくなり、単に「その途中経過(つまり、死ぬまでに時間の幅がある)」ことだけが意識されてしまい(いわゆる「場面設定」となり)、その間に出来事が起こったということになるからである。そして出来事といっても、数十秒とか数分ほどでよい行為が示されている。(35 a,b)をみていると「まだそんな早い段階で」というような意味があると考えられるので、(34)のbefore節が完全に容認されないのはそういう意味合いがないためだと思われる。(36)のように主節が同じく過去完了になっている場合でもニュアンスはあまりかわらないようである。

- (34) John was trapped in a small room and was choked with smoke, but {?before, by the time} he *had died*, he managed to write the characters on the wall to give a clue to the murderer. (松村 1996: 115)
- (35) a. And **before** we *had even sailed* out of harbour, I knew I was a confirmed poor sailor.
 b. Just as he turned around, I wheeled and run; but **before** I *had run* ten yards I heard a half a dozen caps bursted at me. (Wordbanks)
- (36) As I foraged gingerly around in the kitchen for a cleanish plate to put my chips on, the phone rang. And **before** I *had realised* what I was doing, I had answered it. (Marian Keyes, *Lucy Sullivan is Getting Married*)

このようにbefore節を前置することは、それが「場面設定」になってしまい、後置の場合とニュアンスが異なることに注意すべきである。場面設定であるということは、「出来事の順番」が意識されているのではなく、どういう「時」に、その状況があったかということを示す。(37a,b)のようにbefore節に期間がくるときは、一般にその期間の短さが意識されており、やはり「そんなに早い段階で」というニュアンスが感じられる。

- (37) a. **Before** forty-eight hours *had passed*, Lara walked into Burnham's office and handed him a check for three million dollars. (S. Sheldon, *The Stars Shine Down*)
 b. Often I heard tales of which I said, "Now this is a thing that cannot happen." But **before** a year *had elapsed* I heard that it actually had come to pass somewhere. Going from place to place, eating at strange tables, it often happens that I spin yarns – improbable things that could never have happened... (Wordbanks)

3.4 before S₂ (完結的), S₁ (状態・完結的)

たとえば、(38a)は「マリリン・モンローは(死ぬ前には)失意の状態ではなかった」ということを、(38b)では「ごみは(ここにくるまでに)圧縮され、多くがぬれた状態である」ことをさしている。(38c)でも、運河ができる前における状態を述べているだけである。このようにbefore節が単純形で完結的出来事を示すときは、その事態が起こる前の状態を主節で示すことがある。これはbefore節の後置ではみられない。(39)のように助動詞can/could+知覚動詞が主節に来る場合もここに含める。

- (38) a. **Before** she died, Marilyn Monroe wasn't heartbroken over being dumped by a Kennedy; she was the one doing the dumping.
(*L.A. Times*, December 14, 1997)
- b. **Before** the garbage gets here, it's compressed and a lot of it is wet, which soaks everything else.
(A. Hailey, *Hotel*)
- c. The United States will turn over control of the canal to Panama in the year 2000. **Before** it was built, ships had to travel all the way around South America to go from New York to San Francisco.
(M. Schwartz, *A Changing World*)
- d. **Before** she had this heart attack, there was some respiration trouble, too, I feel.
(*Larry King Live*, May 5, 2000)
- e. **Before** Warnaco bought this other company, you were satisfied with the other company?
(*Larry King Live*, June 5, 2000)
- (39) **Before** he was outside he *could* hear her crying start in the basement, an involuntary sharp wail, as though she were in pain, as though she had burned herself.
(Wordbanks)

主節が状態でなく完結的出来事の時も、2つの連続する出来事をさすのではなく単なる場面設定となる。(40d)のように、主節に過去分詞がくるときもここに含める。

- (40) a. Alex went back upstairs after that, but **before** she left, Mark asked her if Coop was coming.
(D. Steel, *The Cottage*)
- b. **Before** they know the facts, they'll go out there and they will have a story, and they'll do anything they can to make that story right.
(*Larry King Live*, June 6, 2000)
- c. **Before** you go to sleep at night, ask them to reveal themselves in your dreams, and you will see them.
(*Larry King Live*, May 5, 2000)
- d. **Before** I was old enough to accept his flaws and to understand the limits of my own ambitions, we had lost each other.
(Wordbanks)

can (could) が用いられると、単なる意図した出来事ということになり、出来事が一時的に妨げられたことを示す。

- (41) a. **Before** he *could* reply, the telephone shrilled. With a gesture of annoyance, he

- answered it. (A. Hailey, *Hotel*)
- b. **Before** she *could* speak, he said, "I heard. I've been on the phone talking to the Union." (S. Sheldon, *The Stars Shine Down*)

したがって、以上のことを整理すると次のようになる。

(42)	S ₁	before	S ₂	意味
a.	完結的		完結的 (単純形)	単なる出来事の順番 (S ₁ によってS ₂ が妨げられることがある)
	完結的		完結的 (完了形)	(順序として)当然先に起こるべきことが実現されず、その途中に、別の出来事が先に起こる
b.	状態・非完結的		完結的	(遅い) 時間、人の様子
	before	S ₂ ,	S ₁	
c.	完結的 (完了形)		完結的	(場面設定)早くもこの段階で
d.	完結的 (単純形)		完結的	場面設定
e.	完結的		状態	(場面設定)事態がおこる前の状態

松村 (1996: 110) は(43)(44)をあげて、「状態動詞の完了形がもちいられた場合容認されにくい」と述べているが、その理由の1つは「beforeの後には出来事がくる必要がある」という基本的原理によるからである。be動詞の単純形はすでに述べたように、出来事になることができ、(42a)の構文であるので、入ること(渡ること)が妨げられる意味をもつ。これに対し、完了形では「入って(渡って)しまう途中に」というニュアンスをもつものの、この構文は本来、妨げる意味はもたないことから、不適切であることが説明できる。

- (43) a. They closed the door of the room **before** I was in.
 b. *They closed the door of the room **before** I had been in.
 c. The bridge was destroyed **before** John was across.
 d. *The bridge was destroyed **before** John had been across. (Declerck 1979: 737)
- (44) a. Mary will close the door of our house **before** I am in.
 b. *Mary will close the door of our house **before** I have been in.
 c. They are going to destroy the bridge **before** John is across.
 d. *They are going to destroy the bridge **before** John has been across.

(松村 1996: 110)

なお、Declerck (1999) では、(45a)と(45b)、(47a)と(47b)ではあまり意味の違いはないが、(46a)(47b)はimmediate resultの意味、(46b)(47c)はperfect of experienceという意味の違いがあると述べている。(45a,b)の違いのなさは、Declerckが述べているように、用いられた動詞が(経過時間が意識されにくい)行為を示すvisitであるからであり、(47a)ではgoであるから出来事的に認識されるのである。(46a)(47b)のbe動詞の単純形が、before節内では出来事的に解釈されることはすでに述べた。(46b)(47c)のhave beenはそれが本来状態動詞で経過時間が意識されやすいため、経過時間が意識されると説明できる。彼は経験 (experience) という言葉を用いているが、(47c)は「他のみんなが入ってしまっていないのに (The others had not yet been inside)」とパラフレーズしていることから、いわゆる経験でなく、「他の人たちがぞろぞろと入っていつている途中に」ということである。これに対して、(46b)は構文上相手の行為を中断させるという意味を持たないので、この「・・・の途中に」という解釈が採用されず、そういう出来事としての経験が起こる前にと解釈になる。これに対して、(47c)ではジョンの行為は他の人の行為を中断させるようなものではない。そういう意味で、Declerckが(46b)と(47c)の両方を状態動詞であるのでperfect of experienceを示すとしているのは正確ではないことがわかる。

- (45) a. The museum closed down **before** John visited it.
 b. The museum closed down **before** John had visited it.
- (46) a. The museum closed **before** John was in it.
 b. The museum closed **before** John had been in it.
- (47) a. John went in **before** the others had gone inside.
 b. John went in **before** the others were inside.
 c. John went in **before** the others had been inside. (以上Declerck 1999: 220-22)

3.5 S₁ (完結的・未来形) before S₂ (完結的・未来形)

また、(48)は未来における出来事発生の時期の単純比較である場合で、単純過去の過去形の時に述べたことと同じことがあてはまる。

- (48) a. She told Andy that she planned to obtain a Reno divorce. Andy told her he would see her in hell **before** he would see her in Reno.
 (S. King, *Rita Hayworth and Shawshank Redemption*)

before節内で示される行為をしたくないことを示したいときにこの構文が使われるとQuirk et al. (1985: 1112) は述べている。before節内のことを拒否するときに用いられる言い方で

ある。

(49) a. He'd sit alone in the dark **before** he'd watch television.

(He prefers to sit alone in the dark.)

b. She'll use the telephone **before** she'll put pen to paper.

(Quirk et al. 1985: 1112)

田中 (1998: 42-43) は(50)を q before p において q が生じないと p と予測できないという否定的因果関係が認められるということで説明している。しかし、(50)はp, q間に因果関係があるというよりも、(主節はmustになっているものの)、出来事の優先順位を明示したこの構文の一変種にすぎないといえる。(51)も類例といえる。

(50) The Japanese women are faced with problems which must be overcome **before** they will be able to exert so strong an influence. (渡辺 1966)

(51) There was additional work to be done **before** all the troops would be ready.

(COBUILD⁴)

以上のことから、(42a)は以下のように修正される。

(42)	S ₁	before	S ₂	意味
a.	完結的		完結的 (単純形)	単なる出来事の順番 (S ₁ によってS ₂ が妨げられることがある)
	完結的		完結的 (完了形)	(順序として) 当然先に起こるべきことが実現されず、その途中に、別の出来事が先に起こる
	完結的 (未来形)		完結的 (未来形)	S ₂ よりS ₁ の事態を好む・優先する

4. before節内のwill

before節では(52)にみられるように、willが本来ないのが普通であるのに、節内にwillがある例があって、これが問題とされることがある。

(52) **Before** he arrives/*will arrive, the band will play the National Anthem.

(Quirk et al. 1985: 1008)

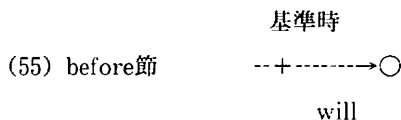
- (53) a. If it rains/*will rain tomorrow, the game will be cancelled.
 b. [if p, then q]

まず(52)のようなbefore節にwillがない理由を考えてみよう。これは(53a)のようなif節の場合と同じことがいえる。つまり、if節のp, qは出来事を示している場合であり、その限りにおいて、 $p \rightarrow q$ という順に出来事が起きると説明できる。before節においてもp, qは出来事を示しているの、同じである。これに対してwillは予測を示し、それが介在すると単なる出来事でなくなり、両者の出来事の順番を示せないのよくないと説明できる。

以上述べたように、before節は基本的に出来事の順番を示す節であるので、本来willがないはずである。ところが、(54a-c)のように、節内にwill（もしくはwould）がある文が存在する。

- (54) a. It will not be long before Tremaine will be here.
 (Mrs. Alexander, *For His Sake*) [渡辺 1966]
 b. But with this difference: it will be a long time before you will realize that you have been slain.
 (W. Faulkner, *Dr. Martino*) [渡辺 1981]
 c. He knew it would be hours before he would begin to hate himself.
 (J. O' Hara, *Over the River and Through the Wood*) [田中 1998]

これらの問題の文では主節は時間を示しているのみで出来事でないため、こうした場合のbefore節は2つの出来事の順番を示す場合ではない。単に、基準時から出来事が起こるまでに時間がかかるとかかからないとかいう場合で、それは(55)のように図示できる。



ここで示される未来を(56)-(58)のように主節でのみ示し、before節では繰り返さない場合が多いが、そうでない場合も存在する。

- (56) It won't be long before we get to hospital. (*Reader's Digest*, Feb. 1999)
 (57) SHERIFF: I'm sentencing you to six months imprisonment. My only worry is that it will not be long before we meet again. (Screenplay: *Trainspotting*)
 (58) Won't be long before Kasich gets some company.
 (*Washington Post*, August 9, 1999)

よって、before節内のwill (would) は基準時から未来のある（出来事が起こる）時点までの時間を示すwillである。主節ですでにかかる時間が示されているので、(56)-(58)などでわかるように、このwillはなくてもよい。ただ、before節内の出来事が起こるまでまだ時間があることに意識があるとwillが生じることがある。つまり、before節内にwillのない場合はそうなることに疑問を抱いていない場合であり、willがある場合は（いずれはそうなるという）予測とか単純未来を意識している場合になるようである。before内のwillが単純未来を示すことは、たとえば(59)の料理法の説明や、進行形が後続する(60)で明白である。

(59) Take your favorite ham, and bake it the way you normally would. About 30 minutes **before** it would be cooked through, glaze the ham with raspberry preserves and barbecue sauce. (Seattle Times, October 16, 1999)

(60) It seemed only a matter of time **before** she would be packing the rest of the apartment. (D. Steel, *The Ranch*)

また、(61)はa matter of timeと「犬が死ぬのは時間の問題である」と述べ、かかる時間を具体的に推量する必要がないので、一般には主節にwill(would)は不要と思える例である。

(61) Even the funny bit at the end of the news, where a dog cycles a bike or says "sausages" pierced me with pain, because I knew it was only a matter of time **before** the dog would die. (Marian Keyes, *Lucy Sullivan is Getting Married*)

渡辺 (1966: 1147-1150, 1981: 312-15) は(54a,b)のような例を「before節（従属節）が意味上主節の働き」をしていると説明している。さらに、渡辺は「willが生じるbefore節は状态的な意味をもつ動詞が多い」と述べている。

こうした考えをわかりにくいものとしているのは、出来事と状態の区別をしていないからである。before節内にbe, realizeがある例は(62a,b)でわかるように存在するが、すでに前節で述べたように、それは新たな出来事を示しているのであって、状態ではない。

(62) a. DeLaurenti Specialty Food Markets started selling gourmet food products long **before** it *was* fashionable. (Seattle Times, December 29, 1999)

b. He had descended about 1,000 feet and traveled "quite some distance" **before** he *realized* he was lost, she said. (Seattle Times, September 27, 1999)

また、主節のwillは推量・予測を示す。よって(63)(64)のようにcouldなど別の助動詞とい

うこともある。

(63) In theory, it could be nearly 20 years **before** the people at the bottom of the list get their rafts into the canyon. (Seattle Times, October 17, 1999)

(64) He thought sadly that it would be *a long time before* he and his neighbors could return and rebuild their town. (M. Schwartz et al., *A Changing World*)

(65)の文の意味が「When will you get here?と時間指定の疑問文である」と田中(1998: 37)が述べているが、これはbefore節の前に主節がないことからわかるように、実質的にbefore節が主節であるからと考える必要がある。

(65) "How long **before** you'll get here?" he asked.

(H. Robbins, *Descent from Xanada*) [田中 1998]

田中(1998: 39)は、(67)においては、「長い間眠ることができなかった」という含意があると述べているのは正しい。しかし、それはこの文にbe able toがあるからといえる。またそれは(64)(68)のcan, couldの場合にもあてはまると思われる。

(66) But Ganguly cautioned the drug, so far, has been studied only in animals and that it may be *a long time before* its benefits are proved for human patients. (Seattle Times, July 23, 1999)

(67) Larry held her tightly and made love to her, but it was *a long time before* Catherine was able to fall asleep.

(S. Sheldon, *The Other Side of Midnight*) [田中 1998]

(68) It will be *a long time before* any landing on Mars can be attempted.

(L.G. Alexander, *Practice and Progress*)

また、(69)(70)のような文でもbe to構文が後続するために、否定的な含意があることと同じである。

(69) Toting their regulation black canvas briefcases, cadets in gray marched crisply across the broad central quad where the weekly Friday afternoon dress parade was canceled 15 minutes **before** it *was to* begin, apparently to ward off a media frenzy. (Cold weather--it was about 45 degrees--was the official explanation.)

(L.A. Times, February 3, 1997)

- (70) Most of this road mayhem was brought to my attention by Rochelle Sobel, a Maryland elementary school teacher, who lost her 25-year-old son, Aron, in a road accident four years ago, four days **before** he *was to* graduate from the University of Maryland medical school. (Seattle Times, November 21, 1999)

さらに、before節の前に時が来る(71)のような例がある。この場合、仮定法になっていることから、実現しなかったことがわかる。

- (71) Max died two months **before** he *would* have retired.

5. おわりに

before節において、when節にみられたような、構文によって意味合いが違うことを示した。

(72)	S ₁	before	S ₂	意味
a.	完結的		完結的 (単純形)	単なる出来事の順番 (S ₁ によってS ₂ が妨げられることがある)
	完結的		完結的 (完了形)	(順序として) 当然先に起こるべきことが実現されず、その途中で、別の出来事が先に起こる
	完結的 (未来形)		完結的 (未来形)	S ₂ よりS ₁ の事態を好む・優先する
b.	状態・非完結的		完結的	(遅い) 時間、人の様子
	before	S ₂ ,	S ₁	
c.	完結的 (完了形)		完結的	(場面設定) 早くもこの段階で
d.	完結的 (単純形)		完結的	場面設定
e.	完結的		状態	(場面設定) 事態がおこる前の状態

以上のようなことからbefore節内には(完結的)出来事を示すものが後続する。ただ、その場合でも、過去完了形の場合は「当然起こるものと思っている」場合に用いられるという違いがある。

さらに、時間を示す主節+before節という構文があり、その場合before節は出来事の順番を示さない場合である。したがって、willがない場合もある場合もあり、出来事が起きるまでの期間(未来)があると意識されたときにwillが用いられること、before節内にwillでなく、can

(be able to) があるときは出来事が起きるまでに長くかかる傾向があること、be toがあるときは否定的な含意があること、仮定法のwouldになると実現しなかったことが示される、というようにbefore節内にどういう助動詞等がくるかによって意味が違ってくることを示した。

【注】

- 1) Swan (2005) は(i)をあげて、not until/till = not beforeという説明をしているが、これはbeforeでは出来事を含む文全体 (I will be seeing Judy before Tuesday) の否定であるのに対し、until/tillではbe seeingを否定する語否定である(出来事の否定=状態)ことが述べられていない。日本語の場合は語否定しかないので、意味が違ってくる。
- (i) *Not until/till* can mean the same as *not before*. And both *until* and *before* can be used to say how far away a future event is.
- a. I won't be seeing Judy until/before Tuesday.
 b. 火曜日までジュディーに会わない。
 c. 火曜日までにジュディは会わない。
- 2) Wordbanksというのは以前はCOBUILD*direct*として記されていたもので、COBUILD社が提供しているデータである。

【参考文献】

- Carter, R.C. 2006. *The Cambridge Grammar of English*. Cambridge University Press.
- Declerck, R. 1979. "Tense and Modality in English *Before*-Clauses." *English Studies* 60: 720-44.
- _____. 1984. "Pure future *will* in *if*-clauses." *Lingua* 63: 279-312.
- _____. 1988. "Restrictive *when*-clauses." *Linguistics and Philosophy* 11: 131-168.
- _____. 1991a. *Tense in English*. Routledge.
- _____. 1991b. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Kaitakusha.
- _____. 1996. "Tense choice in adverbial *when* clauses." *Linguistics* 34: 225-261.
- _____. 1997. *When-Clauses and Temporal Structure*. Routledge.
- _____. 1999. "A Brief Look at Tense and Time in Adverbial *Before*-Clauses." In G.A.J. Tops et al. (eds.) *Thinking English Grammar*, 209-25. Peeters.
- 衣笠忠司. 1998. 『語法研究と言語情報』英宝社.
- 松村瑞子. 1996. 『日英語の時制と相—意味・語用論的観点から—』開文社.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, & J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- Swan, M. 1984. *Basic English Usage*. OUP
- _____. 1980, 1995², 2005³ *Practical English Usage*. OUP..
- 田中 廣明. 1988. 「if節と法的要素」六甲英語学研究会(編)『現代の英語研究』, 203-14. 金星堂.
- _____. 1993. 「客観的予測を表すif+will」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』, 98-107. 英宝社.
- _____. 1998. 『語法と語用論の接点』開拓社.
- 渡辺 登士. 1966. 「時」副詞節にwill(1)(2)」石橋幸太郎ほか(編)『英語語法大辞典』1147-50. 大修館書店.
- _____. 1998. 「before he *would* see the enemy」「before he *came* (*should come*, or *would come*)」渡辺登士ほか(編)『英語語法大辞典(第3集)』312-15. 大修館書店

【2006年9月20日受付, 10月30日受理】

On *before*-clauses

KINUGASA Tadashi

Kinugasa (1998) asserts that in the case of *when*-clauses, the aspect of the main clause and the aspect of the subordinate *when*-clause determine the meaning of the structure. This paper asserts that the same thing applies to *before*-clauses. In the case of S_1 *before* S_2 , when S_1 and S_2 have a simple tense, the sentence implies a successive event, and the event of S_1 can prevent the event of S_2 from taking place. When S_2 has a perfective aspect, it suggests that the event of S_1 occurs before the event of S_2 is supposed to occur. When both S_1 and S_2 include *will*, it means that the speaker/writer prefers the event of S_1 to the event of S_2 . These kinds of structure differences show the differences of the meaning of the structure.

Usually the subordinate *before*-clauses do not have *will*, but when S_1 has a time adverb, the *before*-clause does not mean a successive event, so S_2 sometimes has *will*. When it does include *will*, the clause means that the speaker/writer realizes there will be some time before the event occurs. When S_2 includes *can* or *be able to*, the sentence suggests that the speaker/writer knows there will be a long time before the event of S_2 occurs. When S_2 clause has *would*, it means that the event will not occur. We cannot explain these things unless we presume that the structure itself has some kind of meaning.